



# おおあし

第12号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

## 水に流してはいけない

高校の時、同級生Y君が、「『水に流す』っていう言葉は、日本だけなんだ。日本は島国だけど外国だと陸続きだからゴミなんかを水(川)に流すと他の国へ流れて争いになるから。」と言ったことを時々思い出します。それは、登校指導中に川沿い(水路沿い)を歩いていると、ポイ捨てされた様々な「ゴミ」を見るからです。おそらくゴミを捨てる人は、川に捨てた方がゴミは流れてどこかへいってしまうだろうという思いからわざわざフェンス越しに投げ入れているのかもしれませんが。また、田んぼや畑に捨てられているゴミを見ると悲しくなります。田んぼや畑は、米や野菜、果物等、私たちの生きる栄養となる源です。それらを苦勞して大切に栽培している方もいるのです。教員の一人として小・中学校での道徳教育の無力感にさいなまれます。

そもそも、「水に流す」とは禊(みそ)ぎの意味があり、けがれや邪悪を川などの水で体を清めるという日本独特の文化から生まれた言葉です。それは、日本には水に流せるほど豊富な水それも清流に恵まれている土地があるからです。そういえば「湯水のように使う」という言い方もあります。

「SDGs(持続可能な開発)」には、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「安全な水とトイレを世界中に」など17の目標があります。14番目に「海の豊かさを守ろう」15番目に「陸の豊かさを守ろう」というものもあります。海では現在プラスチックゴミが問題になっています。そのゴミはどこから集まってきたかという……。先日、ウミガメが不織布マスクを食べたことが排泄物からわかったと新聞にありました。以前から、ウミガメがゴム風船をイカと間違えて食べて死ぬということが問題になっていました。「持続可能な開発」の裏には、「このままだと、未来の地球や人類は持続不可能な事態に陥るという極めて重大な危機感が背景にあるからにほかならない」と大阪大学教授 星野俊也氏が述べています。

(「楽しい学校」令和3年度冬号 大日本図書)

日本は世界に類を見ない「礼儀」「マナー」を重んじる国として知られています。大震災後、食事の配給を受け取るために数十分も順番を守って静かに並んでいる様子は全世界へと発信されました。

ポイ捨てる人がいる一方でゴミを拾う人もいます。昨年、大リーグで大活躍した大谷翔平選手もその一人です。花巻東高校時代の佐々木監督から「ゴミは人が落とした運。ゴミを拾うことで運を拾うんだ。そして自分自身にツキを呼ぶ。そういう発想をしなさい。」と指導を受け、自身の作成した「目標達成シート」の「運」の項目に「ゴミ拾い」を挙げて今でも続けているそうです。

話は変わりますが、ゴミ拾いを「スポーツ」として扱う競技? があるそうです。「スポGOMI 甲子園大会」と題して、高校生がチームでゴミ拾いをするというイベントです。場所は公園だったり海水浴場の砂浜だったりと人が多く集まる場所です。ペットボトル1個〇点とかタバコ1本△点とか予め「ゴミ」の種類によって点数を決めて、拾い集めた「数」と「量」で競うものです。

数年前に、県立鴻巣高校の女子生徒が自転車で帰宅途中、トラックから落ちたと思われる古紙が路上に散乱しているのを見て、近くのコンビニでゴミ袋を購入し、通行する車に注意しながら必死に拾い集めたというニュースが話題になりました。通りかかったドライバーがその様子を鴻巣警察署に連絡して警察官が駆けつけて一緒に拾い集めたそうです。生徒は、古紙の散乱状況を見て「ほうっておけなかった」と言っています。思っても行動に移すのはなかなか難しいものです。

本校の児童は、この厳寒でも、冷たい水で雑巾をしぼり、ひざをつけて丁寧に床を拭いています。一人あたりの清掃範囲も大変広いのですが一生懸命無言清掃しています。来校者からも時々「きれいですね」という言葉をいただきます。本当に誇れる児童です。「床の光は心の光」と言います。この子たちならきっと「持続可能」な社会を創っていつてくれるものと信じています。

大谷選手や鴻巣高校生(当時)には遠く及びませんが、私も「ゴミ拾い」見習います。

(校長 橋本 浩)